

## 呉市テニス協会

### 沿革

呉市テニス協会が発足したのは、昭和21年4月に呉体育協会にローンテニス部が設けられたのが前身である。以降、昭和23年に呉市体育協会に所属する加盟団体として教育委員会体育振興課の指導や協力を得ながら発展してきた。

今回、100年史の編集を纏めるにあたり、本協会の歴史情報を関係者から調べようとしたものの、残念ながら当時の事情を知る先輩諸氏は既に他界されており、事務局引継資料にも最近の大会運営に必要な記録等しか残っていなかったのが実情である。

しかしながら、こうした機会に少しでも整理しておくことが大切であろうと、不確実ながらも関係者からヒアリングして得た内容を以下に記述しておくことにする。

終戦直後は皆、生きていくのが精一杯であった時期から、数年経つと皆が元気にスポーツをする余裕が生まれ、手軽に楽しめるテニスが盛んとなった。廃墟になった広島市で発祥したエスキーテニスが、企業（IHI等）にも導入され、呉市でも堺川沿いで楽しくプレイされる姿が見られた時期でもある。

呉市では昭和26年の第6回国民体育大会時に現在の市営コート8面が整備され、テニス環境が出来た。しかしながら、当時は、テニスと言えば軟式テニスが主流であり、硬式テニスプレイヤーは未だ少数の時代であった。

そうした中で硬式テニスを愛好する医師会や同好会が中心となり、地元企業のクラブ組織と連携を図りながら、当番制で多くの大会が呉市で開催されるようになった。

当時のテニスブーム（天地真理の歌謡曲に代表される「恋する夏の日」♪あなたを待つテニスコート♪）とも会い重なり、テニス人口は急速に増加していった。

その後、多少の紆余曲折はあるものの、現在では年間12の大会を開催しており、当協

会への登録団体：40、会員数：500人以上の規模で運用して来ている。

### 歴代会長、理事長

年度	〈会長〉	〈理事長〉	備考
昭和25年	大野 雅司	—	理事長不在
昭和37年	同上	堀 蓉一郎	
昭和40年	工藤 正士	同上	
平成5年	香川 寛光	山根 宗一	
平成10年	同上	瀬川 秋生	
平成12年	堀田 省三	同上	
平成16年	同上	中島 正雄	
平成18年	同上	稲根 良一	
平成26年	同上	大田 幹夫	

### 現況、役員

顧問	寺田 稔	衆議院議員
	奥原 信也	広島県議
	瀬川 秋生	元理事長、副会長
会長	堀田 省三	
理事長	大田 幹夫	事務局
副理事長	稲根 良一	運営委員長
	上田 久司	レフェリー委員長
理事	田中 千春	県協会審判委員長
	山根 宗一	同 副審判委員長
	渡辺 一照	呉市会議員
	西野 朝生、 村田 将雄	
	浦野 圭介、 中田 洋平	
	中村 正二、 森下 章太郎	
	守下 裕美	
監査人	石原 浩、 大谷 竹五郎	



平成22年 寺田議員を囲んだ協会役員

## 施設

### 【 大会開催用としての施設 】

呉市総合スポーツセンター	10面（オムニ）
--------------	----------

平成17年4月に旧マツダ健保スポーツセンターを呉市が取得して活用している。平成24年に改修工事を行い、水捌けが良いことから雨さえ降らなければ利用できる。但し、車が無いと行き難い場所にあるため、学生には敬遠されている。



呉市総合スポーツセンターでの試合風景

呉市市営コート	8面（クレイ）
---------	---------

昭和26年の第6回国民体育大会時に整備された。今では土のコートは珍しく、どちらかと言うとソフトテニス用で中高体連の試合等で多く使用されている。

バレーコート	3面（クレイ）
--------	---------

昭和59年に整備され、市営コートとの識別上、元バレーコート場の名称が残っている。スポーツ会館に宿泊しての合宿利用や大会時のサブコートとしても利用されている。

### 【 各地域体育振興用としての施設 】

昭和コート	5面（ハード2, クレー3）
警固屋コート	2面（クレイ）
倉橋コート	2面（グリーンサンド）
豊コート	1面（ハード）

地域が偏らないコート整備の要望がある。

### 【 学校関係の施設 】

中学、高校の運動場の一面にコート进行設けている所が多いが、少し整備されたコートには

呉高専コート	7面（オムニ）
三津田高校	4面（クレイ）

等がある。

この中で、呉高専コートについては、大会開催で利用させて頂いていた時期もある。

### 【 民間の施設 】

過ってバブル時代には、呉市内および近郊には民間のテニスクラブ（アストロ、芸南、シーサイド、石田、熊野、広ローン等）や大手企業のコートがあったが、現在、残っているコートは倶楽部と共に数少なくなっている。

呉市に大きな大会を誘致するためには、試合運営上、コート20面ぐらひは必要であり、雨天でもプレイできる室内コートの整備と共に今後の拡大整備が望まれている。但し、他県の都市でも国体開催地だけは、施設が充実するものの、平日の利用者が少なく箱物の維持管理費だけが増大するという現象は否めない。計画には、知恵と工夫を必要とする。

現在、焼山地区の廃棄物埋め立て跡地利用の構想もあるが、アクセスの問題がある。天応地区のポートピアパークに多目的利用のスポーツ施設を！という市民の声もある。

今後、呉市教育委員会が管轄するスポーツおよび文化活動関係者の幅広い意見を採り入れて呉市の活性化に結び付けて頂きたい。

### 事業、行事

#### （開催大会）

毎年、下記の12大会を開催している。

春季ダブルス大会
春季シングルス大会（※）
呉市民体育大会（団体戦）
夏季ダブルス大会
秋季シングルス大会（※）
全呉選手権ダブルス大会
呉市体育祭（地区対抗）
全呉選手権シングルス大会（※）
冬季シングルス大会
桜花杯ダブルス大会
呉市テニス協会大会
ミックスマックス大会

（※）印の大会では、小中学生を対象としたジュニア部門も設けている。

最近では、広島市からの団体登録も増加し、ハイレベルの試合が多くなってきた。また、ジュニア大会も設けたことから他都市からの参加も多くなり、嬉しい悲鳴をあげている。

#### (スクール活動)

呉市体育振興財団の主催で、市政だよりを通して公募する形で下記のような教室を開催し、裾野を拡げている。

- 1 初心者硬式テニス教室
- 2 夏休み子供テニス教室
- 3 一般硬式テニス教室

#### (ジュニア育成)

ソフトテニスでは、小学生を対象としたスポーツ少年団として活動している団体が多いが、硬式テニスとしては、呉ジュニアテニスクラブを設け、練習コート確保については、呉市教育委員会の協力の下で活動をしている。

ジュニア育成の問題としては、呉市の公立中学校に硬式テニスクラブが無いことである。

広島市に比べてクラブが無く、選手が育たない理由には、次のような要因がある。

(1) コートが確保できない。

(ソフトテニスと競合してしまう)

(2) 硬式テニスの指導者が不足している。

進学したり社会人になってからソフトテニスから硬式テニスに転向する者も多いが、バック打法に違いがあることから、難しい。テニスと言えば、国際的には硬式テニスであり、日本が見真似でゴムマリを用いて独自に育てたソフトテニス文化を大切にすることも理解できるが、スポーツ教育指導方針に頭の切り替えを要する。奇しくも以下に紹介する呉市出身の有名選手は、いずれも転向者である。

#### 活躍した選手、チーム

日本テニス界では伝説にもなっている呉市出身の俵選手や坂本兄弟のことを知る人は少なくなっているが、日本テニス協会に関する全国大会で優勝した事例としては、以下のような有名選手が挙げられる。

**俵 積雄** (吉浦出身)

大正13年 全日本選手権シングルス大会で優勝  
(翌年も連続優勝)

大正15年 デビスカップ大会日本代表として活躍  
(優勝したフランス相手に善戦)

**坂本 京一、真一** (両城中学、兄弟)

昭和46年 全国ジュニア庭球選手権大会で優勝

昭和47年 アジアジュニア庭球選手権大会で優勝

昭和48年 全日本大学庭球選手権大会で優勝

昭和54年 全日本選手権ダブルス大会で優勝  
(昭和63年までに計5回優勝)

昭和56年 全日本プロシングルス大会で優勝  
(昭和59年までに神和住選手を破る等して計2回優勝)

昭和59年 全日本選手権シングルス大会で優勝  
全日本室内ダブルス大会で優勝  
(昭和63年までに計3回優勝)

呉市在住の形として、中国大会、都市対抗、国体で活躍した選手は数多いが、中でも

**堀 蓉一郎氏** (平成24年逝去) は、広島県代表として国体に昭和42年から昭和56年の間に14回も出場し、コートでは「あり地獄の堀」と言われて全国に恐れられていた。我々後輩は堀さんという愛称で親しみ、指導を受けたものだが、理事長としても色々と尽力され、呉市テニス協会の礎を造って来られたと言っても過言ではない。(堀さんの弟子とも言える藤川 清明氏や堀田 省三氏は、後に国体出場を果たしている。)

近年の広島県や中国大会のレベルでは、一般女子で佐藤 浩子、上田 有香、ベテラン部門で田中 千春氏等の活躍が目立つ。その他、ネンリンピックにも広島県代表として呉市から毎年のように多くのシニア選手を輩出して来ている。(例 瀬川 秋生氏：7回出場)

尚、上記の俵 積雄、坂本京一、真一、堀 蓉一郎選手についての詳細は、呉市テニス協会のホームページに参考資料として掲載されているので、是非とも一読して頂きたい。

URL <http://www.kure-tennis.com/>

## その他

### (ベテランの活躍)

最近の明るいニュースとしては、ベテラン陣の活躍が目立ち、全日本ベテランテニス選手権大会では、尾田 行令氏（広島県シニアテニス連盟会長）や向井 龍義氏等が全国の試合に飛び回り、元デ杯選手に勝利する等して地元の若い選手に刺激を与えている。

下の写真で左は藤田あきら氏（広島県テニス界で活躍し、名コーチ：平岡 康治、河原 清隆氏等の選手育成にも貢献）  
右は元デ杯選手の石黒 修氏である。



全日本大会での向井 龍義氏（中央）



小村市長への優勝報告

### (活動状況と今後の方針)

正確な統計数値ではないが、日本のテニス人口は昔1000万人（つまり10人に1人はテニスをする）と言われて来たが、今や300～400万人に減少して来ている。

スポーツ文化の発展は、時世および日本経済とも連動する要素もあろう。当協会登録会員の統計数値を見ても、特に若者や女子の減少傾向が目立つ。実際、呉市のテニス場を見ても若いミニスカートの女性は見受けられず、どちらかと言うとシニア層ばかりが目立っている。

シニアが元気にテニスしていることは、それはそれで好ましいことではあるが、何か問題も見え隠れして来る。

当協会では、定期的に理事会を開催し、次のような課題について問題意識を持ち、真面目に議論を行っている。

#### (1) テニス人口増加への施策

- ・魅力ある大会作りと円滑な運営
- ・大会エントリー数の増大
- ・女性会員数の増加
- ・テニススクールの開催

#### (2) ソフトテニスとの共存共栄

- ・定期的合同会議でベクトル合わせ
- ・テニスコート施設の充実  
(コート整備、屋内設備を作る)

#### (3) 公立中学校にテニスクラブを設ける。

- ・中体連行事に組み込む。
- ・指導者（顧問先生）の育成

呉市テニス協会は広島県テニス協会の組織としても、副会長（堀田 省三）、審判委員長（中島 正雄）、強化委員長（田中 千春）等が要職に就いて来ている。

広島県テニス協会でも呉市と共通する問題点を抱えており、今後も県と連携強化しながら、役員としても貢献して行く所存である。

協会活動は全てボランティアあり、人材発掘による体制強化も重要である。テニスを愛し、情熱で溢れる若いスタッフを切望している。

今後、当協会は、地域や学校とも連携を密にしながら建設的な意見を呉市体協に提言して行きたい。全面的な協力支援の努力をすることをお約束し、記念誌の纏めと致します。

以上